専門職ボランティアの存在意義
～阪神淡路大震災からの支援論～

清水　亮

復興まちづくりと被災者支援ボランティア

- 復興まちづくり
  - 可能な限り元居た場所に戻す
    避難所→仮設住宅→自宅(修繕・再建・借家…)
  - でも戻れない人がいる(まちづくりの<所有の論理>)
    避難所→仮設住宅→災害復興公営住宅
- 被災者支援のボランティア
  - 戻れない人＝生活困難(貧困・失業・病気・高齢者・障害者…)
  - 「コミュニティ」の分断(避難所→仮設、仮設→復興住宅)

抽選　抽選

孤独死問題　＝　生の孤独化

阪神高齢者障害者支援ネットワーク

- 緊急高齢者保護施設「サルビア」の設置
  - 専門職のボランティア化・・・職能意識
  - サバイバーズエリアの確保
- 仮設住宅支援
  - 安否確認
  - ふれあい訪問

    「五感をフルに活用させて」
  - コミュニティづくり

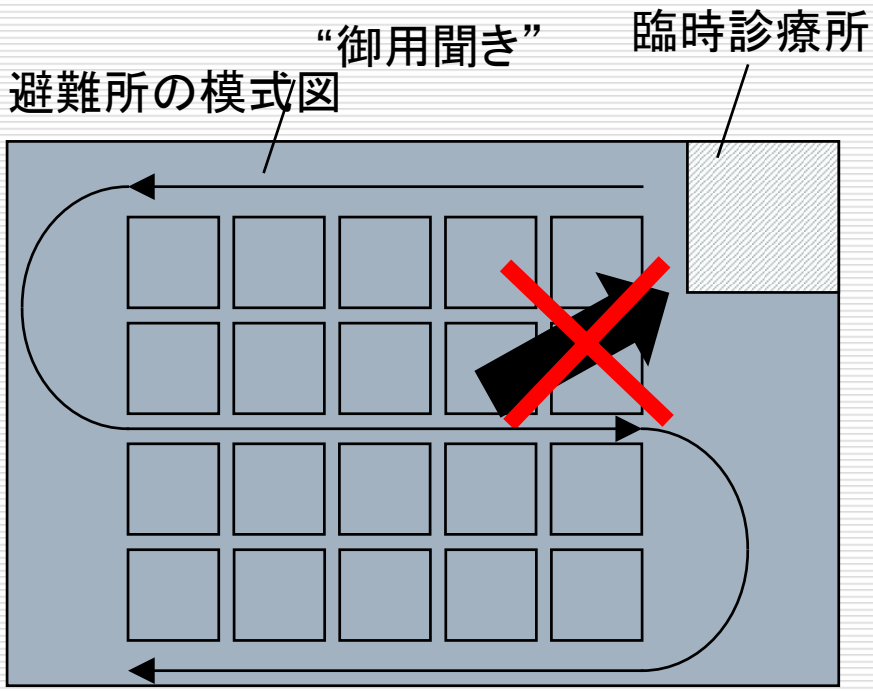
    「人として関わる」「生活の全体を見る」
- 復興住宅訪問と生きがいづくり

レスキュー段階～サバイバーズエリアの確保
(～1995.03.)

- 要介護高齢者の発見
  - 避難所の高齢者(寒さ／食事／トイレ／流感)
  - 専門職のボランティア化
    - 福祉事務所の機能停止と職能意識
    - 脱施設化
      - ・→厚生省への直接交渉
      - ・施設入所拒否による死者の発生→要介護者の対象拡大
  - ながた支援ネットワークの結成(01.31.)
- 緊急高齢者保護施設「サルビア」の設置
  - 緊急保護(02.06.)　26名の入所
  - サルビアの閉鎖(04.03.)

〈脱施設化〉

□ 避難所の臨時診療所



施設型サービス
　ニーズ→施設へ
　来訪者減＝ニーズ減
ニーズの存在の予見(専門職能)
　ニーズの開拓(脱施設化)と発見

「日常」
　制度・秩序・規範・法・ルール
　　・しくみ・施設・・・
　制度下での専門性の発揮
「非日常」
　制度の崩壊／新規ニーズの生成
　　／制度の取りこぼし
　非制度的対応の必要
　　＝専門職のボランティア化

レスキュー段階～サバイバーズエリアの確保
(～1995.03.)

- 要介護高齢者の発見
  - 避難所の高齢者(寒さ／食事／トイレ／流感)
  - 専門職のボランティア化
    - 福祉事務所の機能停止と職能意識
    - 脱施設化
      - ・→厚生省への直接交渉
      - ・施設入所拒否による死者の発生→要介護者の対象拡大
  - ながた支援ネットワークの結成(01.31.)
- 緊急高齢者保護施設「サルビア」の設置
  - 緊急保護(02.06.)　26名の入所
  - サルビアの閉鎖(04.03.)

仮設住宅支援(1995.06.～1999.09.)

- 孤独死の発見･･･新たなニーズの発見
  - 震災で生き延びたのに…
  - 仮設から死者をこれ以上出さないという決意
    - 阪神高齢者･障害者支援ネットワークへ改称･･･活動の継続
    - 西神第七仮設の選択･･･最大規模
- ふれあいテントの設置 → ふれあいセンターへ
  - ボランティアが24時間駐在
  - 仮設自治会結成の支援･･･コミュニティ形成
- 安否確認
- ふれあい訪問
  - アルコール依存症への対応

    「生活」の全体をみる／「五感をフルに活用して」観察
- 最後の一人まで

仮設住宅の状況

- 郊外型仮設住宅団地の大量供給
  - 支援活動のフィールドの移動＝避難所から仮設住宅へ
  - 西神第七仮設住宅(120棟、1060戸、ピーク時人口1500人、世帯数1000余り、神戸市内最大)
  - 抽選方式による仮設入居(コミュニティの分断)
- 仮設住宅の住環境と孤独化
  - 玄関の高い段差／防音不備／縁の高い風呂／手すり無し／降雨時の悪路化／車椅子スロープの先の砂利道／全棟同一外観／買い物先の不案内／知人の不在
  - 相次ぐ孤独死報道(1995年5月～)

神戸市内の仮設住宅建設

	団地数	合計戸数	タイプ別戸数			
			2K	1K	一般向 地域型	高齢者向 地域型
東 灘	32	3,833	3,221	157	56	449
灘	16	996	311	228	96	351
中 央	24	3,796	1,566	1,900	43	282
兵 庫	17	654	271	199	88	96
北	46	5,838	4,135	1,703	―	―
長 田	14	647	349	107	120	71
須 磨	45	2,125	1,197	581	96	251
垂 水	23	2,308	1,423	885	―	―
西	69	8,947	7,782	1,159	―	―
市内計	288	29,178	20,255	6,919	504	1,500
市 外	25	3,168	3,168	―	―	―
合 計	313	32,346	23,423	6,919	504	1,500

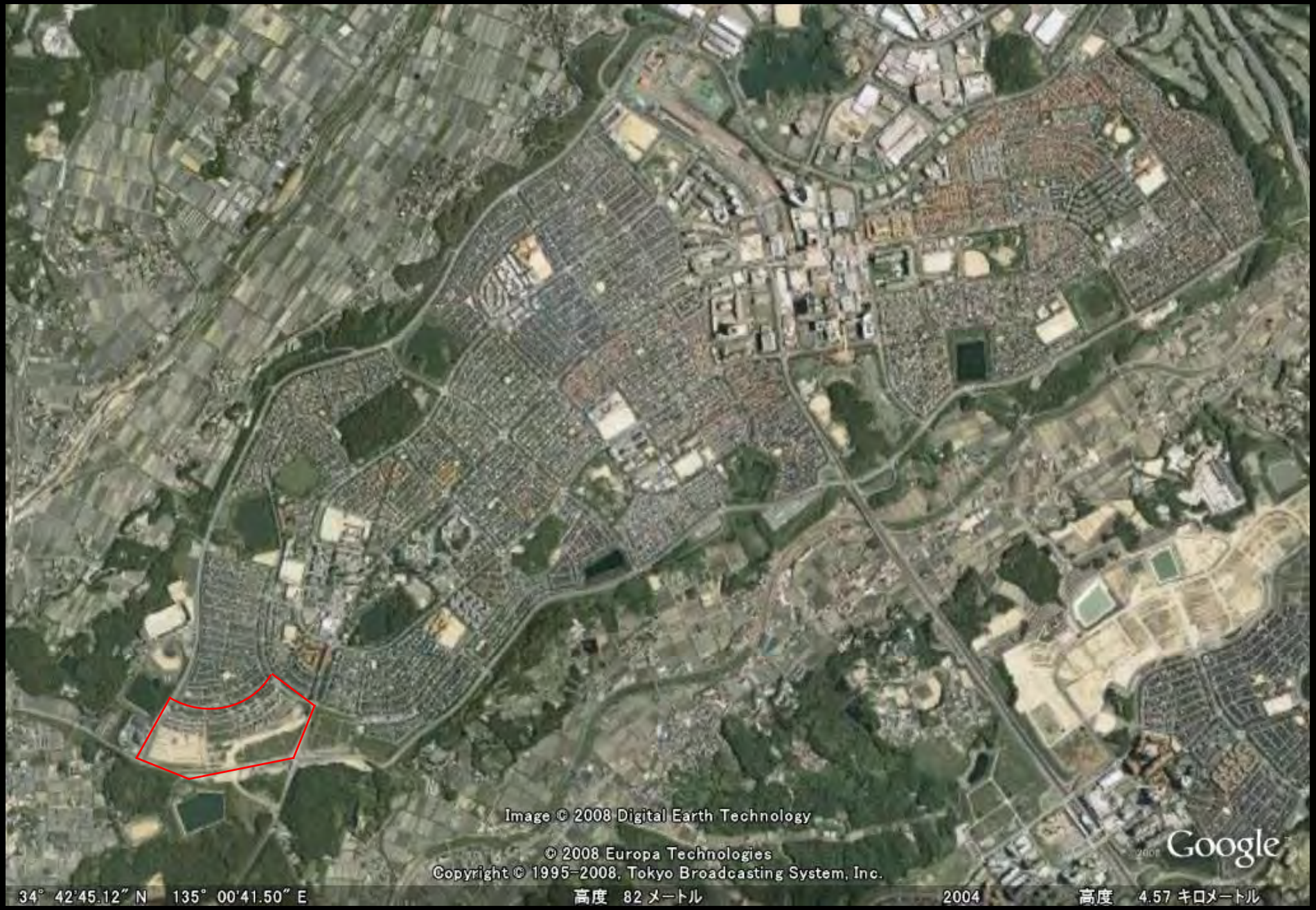
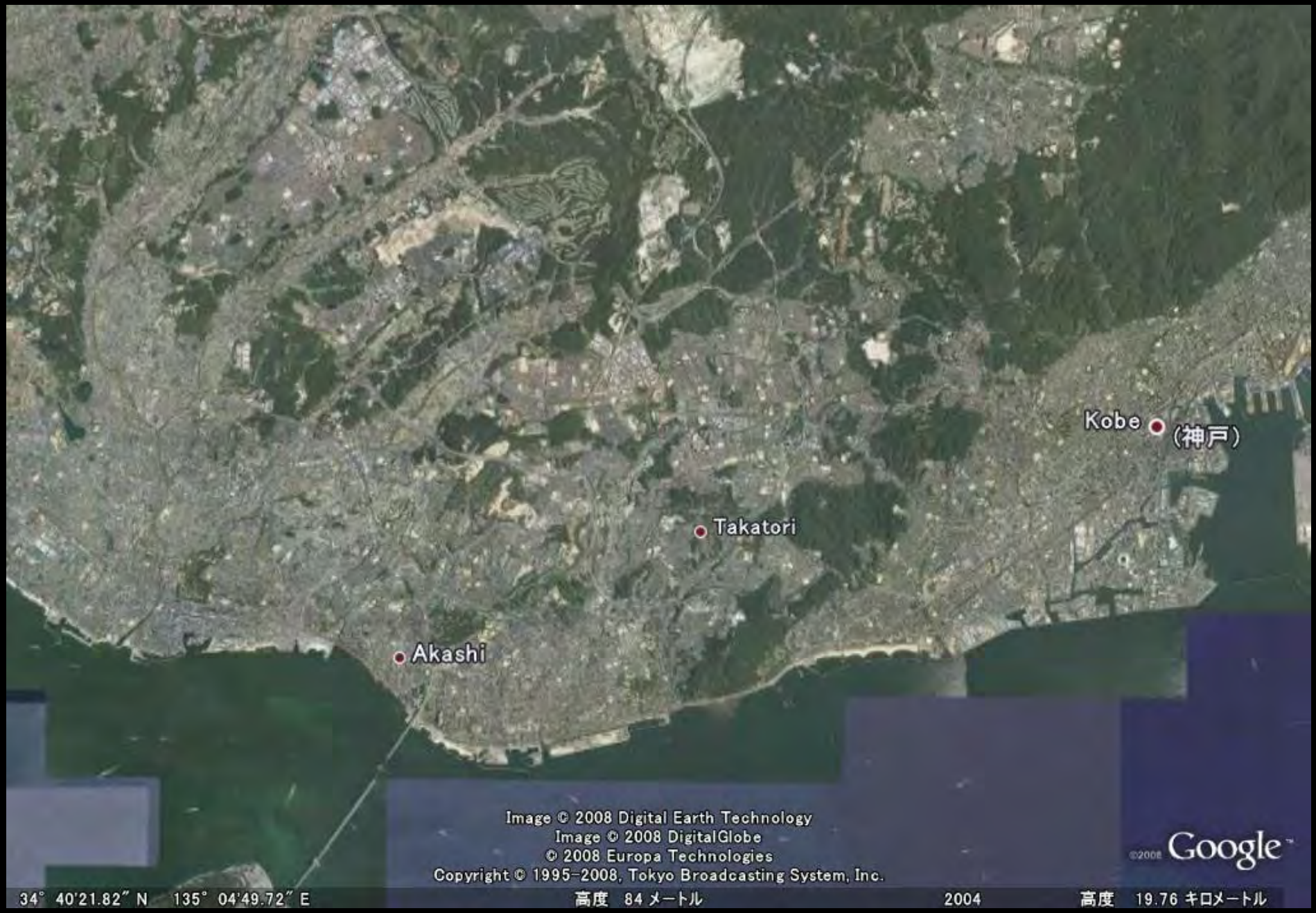


Image © 2008 Digital Earth Technology
© 2008 Europa Technologies
Copyright © 1995-2008, Tokyo Broadcasting System, Inc.
Google
34° 42'45.12" N 135° 00'41.50" E
高度 82 メートル
2004
高度 4.57 キロメートル


Kobe
(神戸)
Takatori
Akashi
Image © 2008 Digital Earth Technology
Image © 2008 DigitalGlobe
© 2008 Europa Technologies
Copyright © 1995-2008, Tokyo Broadcasting System, Inc.
©2008 Google
34° 40'21.82" N 135° 04'49.72" E
高度 84 メートル
2004
高度 19.76 キロメートル

仮設住宅支援(1995.06.～1999.09.)

- 孤独死の発見･･･新たなニーズの発見
  - 震災で生き延びたのに…
  - 仮設から死者をこれ以上出さないという決意
    - 阪神高齢者･障害者支援ネットワークへ改称･･･活動の継続
    - 西神第七仮設の選択･･･最大規模
- ふれあいテントの設置 → ふれあいセンターへ
  - ボランティアが24時間駐在
  - 仮設自治会結成の支援･･･コミュニティ形成
- 安否確認
- ふれあい訪問
  - アルコール依存症への対応

    「生活」の全体をみる／「五感をフルに活用して」観察
- 最後の一人まで

五感をフルに活用して

ケアマネジメントを展開していくときに重要なのは、ケアマネジメントのプロセスが、ボランティア活動そのものをどのように取り入れるかである。

・・・中略・・・

総合サービスの提供を有効に活かすためには、ボランティアコーディネーターの「心」「手」「目」「耳」の五感をフルに活用し、「人間」と「生活」という観点から測定をおこなうことが大切である。(黒田裕子)

＜資料画像＞

＜資料画像＞

「人間」と「生活」という観点

- 換気扇・台所・ゴミ箱から「生活」を読み取る

  読み取る力＝「生活者」の目線

- 「人間」として向き合う

  「人間」とはどんなものかを知る

  なぜアルコール依存になるのか

  その人の気持ちになって考える

くらしを整える

- 総体としての「人間」を見る
  - 問題のある部分だけを見るだけではダメ
    「断酒」してもすぐにまた飲んでしまう実態
  - 「くらし」全体を整える必要
    アルコール依存になった原因を取り除く努力
- 聴く
  - その人の「健康」を支える「くらし」の全体を見る
    当事者の「生活」を知る ➡ 「聴く」という手法

〈生〉の固有性へのこだわり

- 行政：制度的・画一的な〈生〉の取扱い
  - 公平性・平等性
  - 〈生〉の共約可能性　「権利」概念
  - 制度の限界
- 〈隙間〉
  - 〈隙間〉への遭遇(encounter)＝問題発見
  - 共約不可能な〈生〉の存在　個別的・ユニーク
  - 多様であることの(相互)承認

復興住宅訪問と生きがいづくり～ポスト仮設段階

- 仮設住宅から復興公営住宅へ
  - 再度のコミュニティ分断(抽選方式)
  - 鉄の重い扉の集合住宅生活
  - 居住地の分散化とボランティアの東奔西走
  - 復興公営住宅における孤独死問題
- 支援活動の多様化
  - 訪問活動
  - 「自立」と「共生」
  - 「あじさいの家」と「伊川谷工房・鱠屋」の開設
    生きがいとしてのしごとづくり
  - 空き家を利用した公営住宅におけるミニ・デイサービス

伊川谷工房では、みんなが手づくりした作品を販売しています。

今日は、かわいい動物のぬいぐるみをつくりました

自立支援の「実践知」

- 「顔の見える関係」「草の根の活動」
- 「関係を切らない」「抱え込まない」
- 「隙間と混在」
- 「たった一人を大切に」
- 「十人十色」
- 「なんでもありや！」
- 「くらしを整える」
- 「最後まで生ききる」